

Red Line

信頼を貫く CAYIN Technology への信頼から生まれた Red Line の設備更新

要約

国: バンコク, タイ

業種: 交通

実装製品:

- SMP-2200 x 40
- ロバスティソリューション

Red Line のデジタルサイネージは、CAYIN SMP-2200 産業用プレーヤーで稼働する交通情報システムである。タイのバンコクにある Red Line の各駅に導入されており、列車名やおおよその到着時刻をリアルタイムで表示し、待つ乗客のためにリアルタイムカウントダウンも提供する。



Red Line の列車が駅に到着し、デジタルサイネージ画面には Rangsit 行きのリアルタイムスケジュールが表示されている。

チームがすでに知り尽くしていたプラットフォーム

タイ国鉄(SRT)が運行する Red Line 通勤列車は、バンコク郊外と都心を結び、BTS や MRT に匹敵する規模で運行されており、乗客数はより多く、運行スピードもやや速い。

数年間にわたり、Red Line 沿線の駅の画面は CAYIN SMP-2100 プレーヤーで稼働し、列車名とおおよその到着時刻をホームで待つ乗客に静かに表示し続けてきた。派手なシステムではなかったが確実に機能しており、SRT 自身のチームもその隅々まで熟知していた。

日々、駅のスタッフは同じダッシュボードからネットワーク全体に情報を配信し、乗客も待つ間に見慣れた同じ画面レイアウトを見ることに慣れていった。一貫性は技術そのものと同じくらい重要だった。なぜなら交通ネットワークの良し悪しは、新しさよりも毎日どれだけ信頼できるかで判断されるからである。

老朽化した機器と止められないリアルタイムネットワーク

どんな機器群もいずれは耐用年数の終わりを迎えるが、交通ネットワークはその間もダウンタイムを許容できない。SRT は、乗客が日々頼りにしているリアルタイム情報画面を中断することなく、各駅の老朽化した SMP-2100 を置き換える必要があった。

大きな課題はどのベンダーを選ぶかではなかった。SRT はすでにこのプラット



フォームを信頼していた。本当の課題は、40 台すべてのプレイヤーをネットワーク全体で置き換える作業を、乗客が日々頼りにするリアルタイム情報に空白を生じさせずにどう実行するかだった。

わずか数台で短時間でも情報が途切れれば、乗客の混乱や駅スタッフへの問い合わせ増加につながりかねない。SRT は、ネットワークの残りの部分をこれまで通り稼働させたまま、駅ごとに段階的に進められる置き換え計画を望んでいた。

SMP-2200 へのシンプルな切り替え

このプロジェクトは、CAYIN の地域パートナーである DmaSStech が SRT と CAYIN チームを結びつけたことから始まった。そこから SRT は 40 台すべてを CAYIN SMP-2200 に置き換え、ネットワーク全体の駅にある列車サービス表示画面の背後に設置した。設置作業そのものは、外部の設置業者やシステムインテグレーターを介さず、すべて SRT 自身のスタッフによって行われ、各プレイヤーは集中管理で運用されている。

チームはすでに長年 SMP-2100 を日常的に運用してきたため、SMP-2200 への移行は、慣れ親しんだワークフローを新しいハードウェアに適用するだけで済んだ。ネットワークが再び稼働するまでに、新たに学習すべきことはなかった。

各機器は個別に交換され、順次オンライン化された。中央ダッシュボードで接続状況を確認してから、スタッフは次の駅へと移動した。この駅ごとの段階的なアプローチにより、SRT は複数の拠点を同時にオフラインにすることなく、移行期間中もネットワークの他の部分を完全に稼働させ続けることができた。

リアルタイムカウントダウンという新たな要望

単純な置き換えにとどまらず、SRT は CAYIN に対し、次の列車到着までの残り分数を乗客に示すリアルタイムカウ

ントダウンを加えたカスタム画面テンプレートを依頼した。画面上ではささやかな変更だが、これにより固定された到着時刻が、乗客が待ちながら数字が減っていくのを見守れるものへと変わった。これは、SRT がすでに信頼しているプラットフォームの上で乗客体験を磨き続けていることを物語る一例である。

顧客がすでにプラットフォームをよく理解している場合、こうした要望にはより素早く対応できる。SRT のチームは CAYIN のコンテンツスケジューリングの仕組みを理解していたため、新しいテンプレートに何を表示すべきかを明確に定義でき、ゼロから会話を始めるよりも短期間で対応できた。

スムーズな移行、そしてこれから

プロジェクトは 2025 年 5 月 7 日に完了し、設置から稼働開始までスムーズに進んだ。

SRT は結果に満足の意を示しており、今後の拡張に向けて SMP-2200 の追加購入もすでに計画している。

毎日休みなく稼働する公共ネットワークにとって、報告された混乱のない移行それ自体が意義ある成果である。

これは、サイネージ機器群を最新化する最も速い方法が、まったく新しいものをゼロから導入することではなく、チームがすでに信頼しているプラットフォームの上に築くことであると裏付けている。

このプロジェクトが示すもの

すべてのアップグレードが白紙から始める必要があるわけではない。信頼できるプラットフォームが、その導入方法をすでに熟知したパートナーと組み合わせれば、これほどの規模のライブネットワークであっても、機器群全体の置き換えを迅速かつ確実に進めることができる。

DmaSStech がタイ国内の他の CAYIN 導入案件で培った実績は、このプロジェクトにも直接活かされた。そして SRT 自身のプラットフォームへの習熟により、運用面での再学習は一切必要なかった。

同様のアップグレードを検討している交通事業者にとって、Red Line の経験はシンプルな教訓を示している。信頼できるプラットフォームを、経験豊富な地域パートナーと組み合わせることは、稼働中の公共ネットワークを最も速く、最も安全に最新化する方法であることが多い。

